

第1学年 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・拗音、促音、撥音、助詞などはまだ習得しきれておらず、書き誤りが多い。 ・話す力、聞く力、読む力、書く力については個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な一文づくりや文章の書き方を繰り返し指導することで、拗音、促音、撥音、助詞の習得を図る。 ・相手意識をもって話したり、聞いたりすることができるように、話す順序を意識させたり、話を聞く態度の手本を示したりする。 ・物語や説明文に興味をもって読んだり、思ったこと・感じたことを書いたりできるように、読む視点を明確にする。 ・様々な形態で音読することを繰り返し行い、内容理解を図る。そのうえで、話し合い活動を行い、読む力を高めていく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・加法・減法の計算が定着していない児童がいる。自力で解決する力には個人差がある。 ・たし算、ひき算の文章問題で問われていることを理解し、的確に答えることにつまずきが見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体物やブロックなどの半具体物操作から、解決を図るようにする。 ・フラッシュカードや計算カードを使用し、計算処理能力を定着させる。 ・問題を読み取る手順をパターン化し、指導する。問題解決する際に、簡単な図や絵を用いながら答えを導けるようにする。 ・予想される児童の反応を基に、自力解決に必要な具体物やヒントカードを用意したり、助言したりする。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・人との関わりに慣れていない児童がいる。 ・観察物をカードに記録する際、文・絵ともにごう表現してよいか悩む児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異学年や保護者、地域の方々と交流する活動を通し、人との関わり大切さを実感させる。 ・身の回りの自然（中庭、公園など）と関わりながら、四季の変化に気付けるよう、自然と関わる時間を十分に確保する。 ・活動の記録やまとめには、各自の気付きを自覚できるよう個別で声をかけながら支援し、相手に伝えるように表現させていく。 ・調べ方やまとめ方、発表の仕方について必要な支援をしていく。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動能力や運動経験に差があるので、様々な動きを体験させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールが単純な遊びを繰り返し行い、ルールを守ること楽しく運動できることに気付かせる。 ・児童のよい動きを称賛し、友達の多様な動きに興味をもてるようにする。 ・指導言を精選することで、運動時間を多く確保する。また、多様な動きをする運動を取り入れることで、運動能力を高める。

第2学年 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」では、「初め・中・終わり」を意識して書くことに慣れていない。また、「」の使い方など、原稿用紙の使い方が定着していない。 ・新出漢字の定着に個人差がある。また、既習の漢字を活用して文章を書くことには課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常時取り組んでいる日記にも「初め・中・終わり」の構成を生かせることに気付かせ、構成メモを作成し、文章の組み立てを意識して書かせるようにする。原稿用紙を使う機会を多く設け、書き方をその都度確かめながら書くことで定着を図る。 ・漢字小テストを繰り返し行うことで漢字の定着を図る。また、文章を書く際には、既習の漢字を活用できているか確認する。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい単元の学習内容は理解している児童が多いものの、その知識や技能を活用して思考を働かせ、自分の言葉などで表現することに抵抗を感じる児童が多い。 ・「長さの測定」や「時こくと時間の読み取り」の定着が十分でない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・答えを求めるだけで満足させるのではなく、考え方に根拠をもたせ、その考え方をノートに記述させたり、発表させたりする。その際には、文や図・式など自分が考えやすいものを用いさせる。 ・日常生活の中で「〇分後」などの時刻や時間を意識させる声掛けをし、時間を読み取る必要性を感じられるようにする。また、学習者用端末を活用し、習熟を図る。
生活	<ul style="list-style-type: none"> ・観察カードなどに見たことを表現することはできているが、自分との関わりにおける気付きは少ない。 ・児童の気付きや思いを基にして学習計画を立てているため、学習に取り組んでいるときは、動植物のよさやまちの楽しさなどを実感しているが、それを自分の生活に取り入れようとするには課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師が価値付けをし、自分との関わりで物事を見る視点や以前の観察と比較する習慣を身に付ける。 ・生活に取り入れている姿を価値付け、広めていく。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・児童によって、運動量や運動経験の差が大きい。 ・友達と仲良く運動したり、準備片付けを協力して取り組んだりできるが、順番やきまりを守ることや勝敗を受け入れることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各運動遊びの楽しさに触れられるよう、易しい運動遊びを通して基本的な動きを身に付けるとともに遊び方の工夫を楽しみながら、多様な運動を経験できるようにする。 ・オリエンテーションできまりを守ることや誰とでも仲よく運動することなど関わり大切さについて重点的に触れ、ペアやグループで行う運動遊びを多く取り入れていく。

第3学年 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」の情報の収集や整理に課題が見られる。 ・「読むこと」に苦手意識があり、何を問われているかを把握することが難しい児童がいる。 ・新出漢字や前学年の漢字が、一部定着していない。また、文章の中で既習漢字も平仮名で書く児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報の取捨選択を行う場面を多く設定し、テーマに沿った必要な情報を収集する習慣を付ける。また、教員の作品例を掲示し、完成形を明確にすることで、どんな情報が必要なのかの見通しをもたせる。 ・図書の時間や読書旬間などを利用し、日ごろから読書する習慣を身に付けさせる。 ・普段から漢字を使うことを意識し、漢字で表現するよさを実感させる。 ・鈴木タイムや宿題での漢字の練習時間を確保する。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・初見の資料の読み取りは個人によって差がある。 ・方角などの知識が一部定着していない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの資料に触れ、どんな資料でも読み取れる力を付けていく。 ・授業の中で年間を通し、繰り返し、地図の読み取りをし、定着を図る。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に意欲的に取り組む。 ・自分の考えや解き方を積極的に発表できる児童が多い。 ・2年生の繰り上がりや繰り下がり、九九が定着していない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決ができるよう既習学習の想起を丁寧に行いながら、個人で考える時間を十分に確保する。 ・ペア学習やノート交流で互いの考えを伝え合ったり、多様な考えに触れたりする場面を多く設定し、表現力を高めていく。 ・筆算や九九の習得は、習熟プリントやフラッシュカード等の補充の取り組みを継続して行い、基礎学力の定着を図っていく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で行った観察や実験を通して、体験的に身の回りの自然事象を科学的な概念へとつなげることができている児童もいるが、個人差がある。 ・動植物の観察では、細かい特徴を捉えてスケッチする能力に差がある。色・形・大きさに着目して書けるようになったが、その気付きから新たな問題を見いだして仮説を立てたり、他の植物と比較して考えたりしたことを書くことには課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察の際、日常生活で起こる事象に焦点を当てたり、予想や仮説をしっかりと立てたりすることで、見通しをもって観察や実験を行えるようにする。 ・実物に忠実に描く丁寧なスケッチの方法と観察の視点を再度指導し、意識させる。 ・多様な動植物の共通点と差異点に着目し、比較・分類する活動を引き続き行い、理科の考え方を働かせることを繰り返し経験できるようにする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲はあるが、体の動かし方のイメージができていない児童が多い。 ・ゲーム型の種目では、チーム内で作戦を立てて動くことが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードや映像資料でポイントを示し、自分が次に何ができるようにしたいのかを明確にもたせ、様々な動きを体験させる。 ・ICT 機器なども使用しながら、友達の動きのよさやそこから学んだコツを自分の動きに生かせるよう共有する時間をつくる。 ・ゲーム型の種目では、作戦を立てる時間を設けたり、ゲームの中での友達のよい動きを共有する時間をつくる。

第4学年 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む」について、内容の大体をつかむことはできるが、深く読む習慣がなく、読み飛ばしてしまう児童が多い。国語の文章読解だけでなく、各教科のテストでも問題を読み飛ばして間違えるということがある。 ・語彙量が乏しく、物語文に書かれている言葉の意味が分からず、正確に読み取ることが難しい児童が多く見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動の流れを児童と共有し、単元全体の言語活動に見通しをもたせる。 ・大事な言葉やキーワードに注意しながら読み進める習慣を身に付けられるように、指導する。 ・国語辞典を活用するとともに、タブレット端末を活用し画像や動画に触れさせ、視覚的に理解できるようにする。また、教科書巻末「言葉のたから箱」を活用した短文作りを行う。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・都内の地形や産業の特色、都道府県の位置や名称などへの関心があまりなく、定着に大きな差がある。 ・水道やごみ処理などインフラに関わることについて、「なぜ」「どうして」と疑問をもちながら学習に臨んでいるが、グラフや写真などから必要な情報を読み取って考察したり、適切に表現したりすることが難しい児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図帳やデジタル教材を活用しながら、都道府県とその土地の特色を関連付けながら学習するとともに、スリーヒントクイズづくりや都道府県カルタなど楽しみながら学習できる環境を築き、国語での都道府県の漢字の学習などと組み合わせながら定着を目指す。 ・グラフや写真、映像資料に触れる機会を増やし、そこから読み取れることや視点を確認しながら取りまとめることで、必要な情報を取捨選択できるようにするとともに、その情報から考えられることを適切に表現できるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の多様な解き方を考えて、表現することを苦手としている児童が見られる。 ・四則計算の理解が十分ではないため、わり算の筆算の習熟が困難な児童が見られる。 ・計算の仕方を考えたり、立式したりすることはできるが、既習事項を踏まえて自分の考えを説明することには課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題の解き方の表現の仕方(図、絵、文章、数直線など)を教えて、児童同士の考えを共有し合い、それぞれ自分に合った方法で表現できるようにする。 ・東京ベーシックドリル診断シート等を活用し、下学年に戻って計算問題を正確に解くことができるようにする。 ・どんな既習事項を活かして解くのか意識できるよう声掛けを行ったり、ペアで自分の考えを発表したりする活動を増やす。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な事象から問題を見いだしたり、既習事項を想起して根拠のある予想や仮説を立てたりすることは、児童によって差がある。観察や実験も意欲をもって取り組むが、観察・実験後の考察をしっかり行い、どうしてそのような結果になったのか追求し結論付ける力を高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実生活や学習体験を想起しながら学習対象と出合わせ、単元全体の見通しをもって観察や実験に取り組めるようにする。 ・実生活やこれまでの学習体験を基にししながら、予想や考察をするように促す。 ・性質の変化に着目した観察だけでなく、比較対照(以前と比べて…)しながら数量的観察を意識させるよう具体的に指導する。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の課題を見付け、克服するためにどのような練習をすればよいかを考えて運動させるようにする必要がある。 ・動きを見合っ、よい点や改善点を伝え合う活動では、受身になる児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードに、課題の例を記載したり、課題を克服するための具体的な練習方法を記載したりして、児童が動きのポイントを意識して運動できるようにする。 ・チームで話合う時間では、良いところや課題を話し合えるように、予め見る視点を共有しておく。

第5学年 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・語彙力に個人差があり、また簡潔に説明することや文章で表現することにおいて個人差が大きい。 ・覚えた漢字を積極的に使う児童と平仮名ばかりの文を書く児童の個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の授業の中で、自分の意見や感想など、簡単な文章を計画的に取り入れて、書くことに対しての抵抗感を少なくし、文章に簡潔にまとめる力を伸ばす。 ・漢字練習と漢字テストの間違い直しを習慣化させながら、漢字で表現するよさや日常的に使うよさに気付かせる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識のある児童が見られる。 ・資料から読み取り、関連付けて考えることや読み取ったことから自分の考えをまとめることに個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象を日常生活に置き換えて考えられるよう、導入や資料提示の工夫をする。 ・資料から「分かること」と「考えたこと」を区別させ、見方や考え方の視点を明らかにし、課題を発見させていく。また、ペア学習の機会を積極的に取り入れて、読み取ったことを共有することで、自信をもってまとめられるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に意欲的に取り組む。 ・どの単元も基礎学力が高い。 ・自分の考えをノートにまとめることや多様な考えを見いだすことに課題が見られる児童が多い。特に文章題おける立式に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決ができるよう既習学習の想起を丁寧に行いながら、個人で考える時間を十分に確保し、問題解決学習の定着を図っていく。ペア学習やノート交流で互いの考えを伝え合ったり、多様な考えに触れたりする場面を多く設定したりして、表現力を高めていく。 ・文章題は、数直線を用いて表現することを重点的に指導し、数量関係を捉えさせ、立式につなげていく。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・予想や仮説を基に実験計画を考える経験に乏しい。 ・問題解決を主体的に取り組もうとする授業の展開を工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験計画を児童自らが考える時間を十分に確保する。実験方法を考える際は条件を制御して行うよさを理解させる。 ・児童自ら学習問題を発見できるように、事象提示を工夫し、気付きや思考を基に問題を設定する。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・技能においては個人差が見られる。 ・グループや個人のめあてをもって運動することや課題解決の練習方法を考えることが難しい児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭でも簡単に取り組めるストレッチなどを扱い、家庭との連携を図る。また、ボールを使った遊びを推奨する。 ・個人やグループのめあてを立てさせて学習カードを作成し、それを基に教え合いや作戦・振り返りタイムなど話し合う時間を多く取り入れ高め合えるよう指導の工夫をしていく。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション活動を楽しみながら取り組む児童が多いが、発音に自信がもてない児童も見られる。 ・書く活動については経験が少なく個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTとのやりとりをたくさん行い、ネイティブ発音に多く触れる機会を設ける。また、英単語や英会話に抵抗なく表現できるよう、アクティビティの内容を工夫していく。 ・書く活動は、4線を意識させた掲示物やワークシートを活用し、反復練習をしていくことで、習得を図る。

第6学年 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・文学的文章の読み取りは比較的できている。説明的文章になると筆者の主張と事例を混同している児童もいる。 ・書く型を示すと意識して書くが、具体性や自身の経験との関連付けに課題がある。 ・要点をまとめて話す力と相手の意見を受けて、対話を深める力には課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明的文章における「内容と構造の把握」に重点を置く。主張の根拠となる事例をどのように配置しているのか、なぜその順番になるのかななどを、説明することを通して、理解を深め、自分の考えをもつことにつなげていく。 ・学習者用端末の活用により、モデル文や具体例の書き方など、参考例を示す。また各事例に対して、自分の体験と結び付けて考える指導を行う。 ・自分の考えを一度整理してから発表する習慣を付ける。また相手の話を受けて自分の考えを再構築する時間を確保し、その良さを共有していく。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・複数資料を関連付けて多角的に読み取る力に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容に応じて『位置や空間的な広がり』『時期や時間の経過』『事象や人々の相互関係』などの社会的な事象に着目させ、必要な情報を得るために、具体的な課題提示や教材の工夫を行う。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な知識・技能の定着に個人差が見られる。 ・自分の考えを積極的に発表できる児童が少ない。 ・解き方や考え方を説明できる児童が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業のクラス分けを適切に活用し、基礎学力の定着を図る。 ・適用問題をクラスに合わせて変更し、児童の実態に合った問題を選択して実施する。 ・他者と学ぶ価値を伝えていき、新たな見方・考え方をもつことができるようにする。 ・数直線を自分でかけるように、文章題では常に数直線の考え方を取り上げる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察に意欲的に取り組んでいるが、実験結果と考察を混同してしまう児童もいる。 ・結果をもとに考察することに課題のある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習事項や経験から根拠のある予想を立て、観察や実験を進める。 ・実験結果と考察の違いを常に意識させる。考察したことからさらなる疑問や問題を話し合い、新たな課題を設定し、主体性を高める。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に参加する児童が多く、チームでの役割を果たそうとしている。 ・技能面での目標が達成できない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを活用し、個々のめあても設定し、結果だけではなく、どんな練習をしたら何ができるようになったなど、学習の過程も振り返りながら、次時につなげる。 ・二学期以降は技能面での適切な課題設定を行い、指導していく。
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者用端末を活用して自分で英単語を調べることで、アルファベットや簡単な英単語について、書くことができる児童が多く見られる。 ・コミュニケーション活動を楽しみながら取り組む児童が多いが、発音に自信がもてない児童も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝え合う必然性のある場面を設定して言語活動を行い、児童の主体性を引き出すようにする。 ・英単語ワークシートを活用して4線を意識させながら書く取り組みを反復練習していく。 ・アクティビティの活動を二人組から始め、徐々に人数を増やし、練習を重ねることで自信をもって発表できるようにする。

音楽科 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカの運指やタンギングが上手くできない児童がいる。 ・曲の感じやイメージを表現することが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常時活動や楽曲練習において運指やタンギング練習を繰り返し行う。教員の見本演奏や得意な児童の演奏を聴き合う時間をつくる。 ・様子や場面を思い浮かべ、アイデアを共有する学習を意図的に設定する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・鍵盤ハーモニカの運指やタンギングが上手くできない児童がいる。 ・曲の感じやイメージを表現することが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常時活動や楽曲練習において運指やタンギング練習を繰り返し行う。発表の場を設定し繰り返し練習することで技能の習得を図るようにする。 ・様子や場面を思い浮かべ、アイデアを共有する学習を意図的に設定する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの息遣いが安定せず、美しい音色が出ない児童がいる。 ・演奏自体を楽しんではいるが、息の合った演奏をすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく、継続的に学べる方法を設定し、個人指導や友達と学び合える仕組みを整える。 ・楽曲に取り組む際、拍に合わせて演奏し、音を合わせて、全員で同じ音を出す経験を多く積ませる。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの息遣いが安定せず、美しい音色が出ない児童がいる。運指の習得ができていない児童が見られる。 ・演奏自体を楽しんではいるが、息の合った演奏をすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく、継続的に学べる方法を設定し、個人指導や友達と学び合える仕組みを整える。 ・楽曲に取り組む際、音をよく聴く活動や拍に合わせる練習を繰り返し、音楽表現の素晴らしさや楽しさを経験させる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲のもつ特徴を生かしながら思いや意図をもった演奏につなげることが難しい児童がいる。 ・音楽技能の習得が乏しい児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲のもつ特徴を理解させながら演奏表現につなげる活動を大切にする。 ・一つの楽器で様々な音が出せる経験をさせ、音楽にあった音を考えさせる時間を設ける。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽表現全体の技能習得が乏しく、学びの意欲をはじめ、音楽表現演につながらない児童がいる。 ・音楽表現力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しく、継続的に学べる方法を設定し、個人指導や友達と学び合える仕組みを整える。 ・音楽行事の発表の機会を通して、ダイナミックな音楽表現を経験させる。

外国語活動 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
3年	<ul style="list-style-type: none"> 外国語活動の時間は、ほとんどの児童が楽しみにしているが、間違えることを恐れて、英語での発話や発言に消極的になってしまいう児童もいる。 キーワードやキーセンテンスが定着していない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 表情やジェスチャーなどの表現方法を活用し、外国語でのコミュニケーションを図ることの楽しさを体験できるようにする。 あいさつの仕方など毎時間取り入れ、歌やゲームなどにも繰り返し取り組むことで、自信をもって答えられるように促し、高学年の外国語科につながるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> A L Tが参加できる時間をとても楽しみにしている児童が多く、ゲームにも積極的に取り組むが、日本語に頼りすぎてしまいう児童がいる。 外国語を聞き取ることが苦手な児童や、分からないときにそのままにしてしまいう児童がいる。 ゲームやチャンツ、ペア等の活動は積極的に取り組むが、全体発表や複数での活動になると、消極的になる傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみながら外国語に慣れ親しむことができるアクティビティや教材教具を数多く用いて、どの時間も楽しく学べるようにするとともに、ジェスチャーなど用いることで、外国語でのやり取りを促すようにする。 「話す」活動や発表をする前に、外国語の表現を聞く機会をたくさん設けることで、インプットを確実にする。また全体で繰り返し発生することで、自信をもってアウトプットできるようにする。

家庭科 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
5年	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に取り組むことはできているが、裁縫の技能に関しては個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別に支援させる体制を組んで、きめ細かい指導を継続していく。 実物投影機・資料提示を工夫し、イメージをもたせ、技能の習得・向上を図る。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 製作や実習をすすんで行う児童が多いが、計画や振り返りを具体的に進め、思考を深められるようにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の主体性を意識しながら、目的や活動時間などを明確にし、計画を立てさせ日常生活にも生かすことができるような手段や方法を示していく。 振り返りでは、実習などを通して考えたことや今後生かせそうなことを記載するよう促して意識化させるとともに、考えを共有することで、思考を深めることにつなげていく。

図画工作科 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・高い意欲と関心をもち、生き生きと楽しく取り組むことができる。 ・個人によっては技能的な能力に著しく差があり、個別対応が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き児童が興味・関心をもって取り組めるよう、新たな道具や素材との出会いや声掛け、題材提供をしていく。 ・個別対応が必要な児童には学習指導補助員を配置し、道具の使用による危険がないよう目を配りつつ達成感を得られるよう配慮していく。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲と関心をもち、新しいことに挑戦したり、生き生きと取り組んだりすることができる。 ・個人によっては技能的な能力に著しく差があり、個別対応が必要であるが、非常に努力している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き児童が興味・関心をもって取り組めるよう、新たな道具や素材との出会いや声掛け、題材提供をしていく。 ・個別に指導が必要な児童には、安全に取り組めるように目を配り、一人一人の個性や能力を発揮できるように配慮しつつ指導を行っていく。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・非常に高い意欲と関心をもち、真面目に取り組むことができる。 ・いろいろなことを試したり工夫したりする力が伸びており、それゆえの失敗もあるが、意欲が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き児童が興味・関心をもてるよう、新たな道具との出会い、声掛けや題材提供をしていく。 ・発想したことを、自信をもって表現できるように、失敗をおそれなくても大丈夫だという安心感を持てるような声掛けをしていくと同時に挑戦することの大切さを伝えていく。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に取り組み、新しいことへの関心や向上心が強く、生き生きと活動・表現できる。 ・集中力にムラがあり周りの様子に影響されてしまったり、制作進度がマイペースで完成までの時間がかかったりする場合もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き児童が興味・関心をもてるよう、声かけや題材提供をしていく。 ・また新たな素材にも数多く触れさせ、発想力・創造力を育てていく。 ・集中力を高められるように、常に新鮮な「めあて」を一人一人にもたせていく。様々な例を示し、どのような表現をしたらよりよくなるか参考にさせる。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・真面目に意欲的に取り組んでいる児童が多い。よく考えながら工夫して表現しようとする姿が印象的である。その一方で集中力が続かなかったり、手が止まってしまう提出期限に間に合わなくなったりするケースもある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き児童が興味・関心をもてるよう、声かけや題材提供をしていきつつ技能や発想力を伸ばしていきけるような課題設定も行っていく。 ・集中力が続かない児童について、個別対応をより一層重視し、個に応じた指導を徹底していく。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に制作することの楽しさを感じている。それゆえに友達の作品のよい工夫に気付くことができる。 ・自身だけの力で集中して制作することが苦手な児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・じっくりと腰をすえ集中して作品制作に取り組むことでその良さを感じられるような題材提供や声掛けを続けていく。 ・集中力に欠ける場合、どのような環境が最適かを担任とも連携を図りつつ整えていく。

特別の教科 道徳 授業改善推進プラン

	課題 ※児童の実態から	授業改善の手立て
1年	<ul style="list-style-type: none"> 教材文から価値に迫ることはできているが、感じたことや実体験を言葉にすることが苦手な児童が見られる。 道徳的価値を自分のこととして捉えたり、自分の経験と重ね合わせて考えたりすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の実態把握を密に行い、ねらいを明確にして教材を活用し、授業の内容を充実させる。 児童の気付きや考えを引き出せるような教材、教具、板書の工夫をする。 学級での発表の機会を多く設け、他の児童の多様な考えを互いに認め合いながら自身の考えを深められるようにする。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値について個々に考えようとする意識はあるが、言葉で表現することや友達の意見を聞き、見方や考え方を広げることが難しい児童が見られる。 教材文で考えたことを実生活と関連付け自分事として捉えられる児童と難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自分の考えを表しやすい教具を活用することで、言葉による表現をしやすくしていく。 友達と意見を見合う時間や自分の考えを深められる時間を設けるなどして、様々な見方・考え方があることに気付き、深めていく。 導入で道徳的価値に意識を向けることができるような工夫をしていく。 展開や終末で自分自身について見つめ直す時間を十分に確保する。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値についての理解はできている児童が多いが、その価値をより多面的・多角的な見方へと発展させることが難しい児童が見られる。 道徳的価値を自分事として捉えたり、実体験を振り返って関連付けたりすることが難しい傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えるテーマを絞り、児童が実体験を想起しやすくする。また、板書を工夫して、友達の考えを捉えやすくし、自己を振り返る手がかりとなるようにする。 ペアやグループでの話し合いや意見の交換等、友達の様々な考え方を多く聞き合える場を設定し、全員が考えたり刺激を受けたりできるようにする。 自分の日常の具体的な場面に置き換えて自分を見つめる時間を十分に確保する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値についての理解はできている児童が多いが、その価値をより多面的・多角的な見方へと発展させることが難しい児童が見られる。 道徳的価値を自分事として捉え、実体験を振り返って関連付けることが難しい傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や相手の考えを様々な方法で共有し、自分自身の見方や考え方と比較したり、受け入れたりできる機会を設けていく。 事例を提示し、実体験を思い起こしやすくし、自らを振り返らせる時間を設けることで、道徳的価値の理解を深められるようにするとともに、普段から自分事として捉えられるようにしていく。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 道徳的価値についての理解はできている児童が多いが、その価値をより多面的・多角的な見方へと発展させることが難しい児童が見られる。 道徳的価値を自分事として捉えたり、実体験を振り返って関連付けたりすることが難しい傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や相手の考えを視覚的に共有したり、お互いのワークシートを見る交流等、様々な方法を用いて話し合う時間を設けたりすることで、児童同士が新たな見方に気付くことができるようにする。 事前にアンケートをとるなど、自らを振り返る時間を設けることで、実体験を通して道徳的価値を深められるようにする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもつことはできるが、相手の考えを聞いて受け止める意識が低い児童もいる。 自分の経験と重ねて考え、自己の生き方について考えを深めたりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師の発問を工夫したり、自他の考えを視覚的に捉える手だてをとったりする。 座席配置を工夫したり、ペアや班・全体での交流活動を多く取り入れたり、多様な考えを認め合えるようにするとともに、自分の考えを深め、道徳的価値を理解しながら、自己の生き方について考えを深められるよう工夫していく。